尼崎市教育委員会

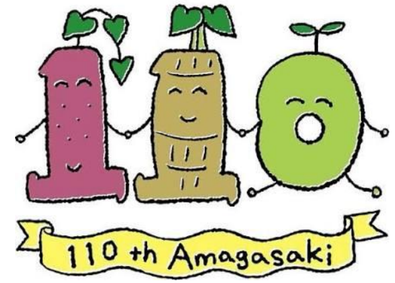
いじめ防止対策・不登校対策支援について



あまたの可能性がさきを拓く
自分をつくり互いを認める教育

いじめ防止対策
【子どもの命と尊厳を守る】

つなぐ つながる
うごきだす



いじめ防止・早期発見への6つの取組み

1.いじめの積極的な把握

2.指導力強化

3.情報共有と初動対応

4.児童生徒への継続支援

5.危機管理への対応力

6.専門機関との連携

【いじめを見逃さない】

学校におけるいじめ事案対応の基本的な流れ

1 発見

いじめの情報・発見
日常観察、本人又は保護者からの訴え、他の児童生徒からの情報提供、アンケート、教育相談など

2 情報収集

情報を得た教員

学級担任・学年主任・生徒指導担当

教頭

校長

3 事実確認

職員会議

報告・共通理解

各学校のいじめ防止等対策委員会の開催

保護者

適宜連絡・支援

・情報の共有、共通理解・事実関係の調査方針・分担の決定・当事者、他の児童生徒等からの聞き取りによる正確な事実関係の把握
・いじめの事実の確認、認知・指導方針、指導体制の決定

4 指導方針決定

連携

関係機関
・警察
・福祉事務所
・尼崎市児童相談所

いじめ認知報告・支援

教育委員会

5 対応

いじめ解消に向けた取り組み

継続的な指導・経過観察

6 経過観察・解消

いじめの解消 ＜要件＞
①いじめに係る行為が止んでいること（少なくとも3か月が目安） ②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

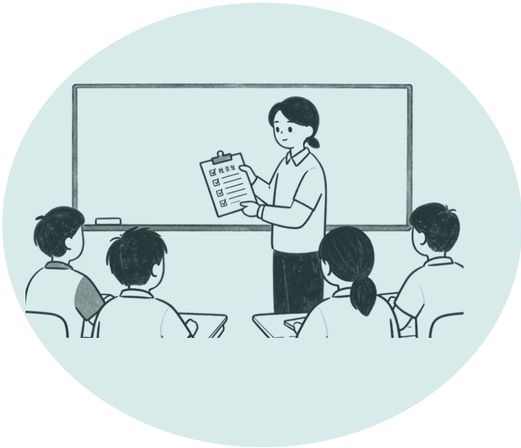
再発防止・未然防止の取組み

いじめの積極的な把握と指導力強化

早期発見・認知・報告の徹底により、いじめを見逃さない体制を構築する

アンケート・面談・訪問による把握

- 市内統一アンケート（各学期１回）の実施と管理確認
- 個別面談・教育相談の定期実施
- 欠席状況・遅刻等の継続的な把握（教育委への報告）
- いじめ防止生徒指導担当による年2回、市内63校への学校訪問



報告・ICT活用による早期発見

- いじめ認知後の教育委員会への報告徹底
- 認知件数・対応状況の記録と共有
- 見守りフィルター（児童生徒タブレットにおいて希死念慮や家出等の検索をした際に発見できるICTツール）による早期発見

いじめの積極的な把握と指導力強化

アンケート・面談・訪問・ICT等を活用した早期発見・把握による認知件数の推移

尼崎市内のいじめ認知件数　※1.000人あたりに換算

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	217件	1536件	2744件	4728件	4950件	5404件	5493件
※尼崎市	10.1件	74.6件	131.3件	207.9件	209.8件	273.0件	278.5件
※全国	66件	75.8件	66.5件	80.7件	89.8件	97.4件	102.7件
中学校	99件	475件	472件	696件	754件	679件	759件
※尼崎市	10.3件	50.0件	50.0件	66.6件	71.8件	72.8件	81.3件
※全国	29.8件	32.8件	24.9件	38.4件	36.5件	40.7件	45.6件
高等学校	21件	21件	16件	21件	36件	49件	29件
※尼崎市	11.5件	11.5件	8.0件	12.0件	9.4件	22.4件	13.0件
※全国	5.2件	5.4件	4.0件	4.4件	6.4件	7.3件	7.7件

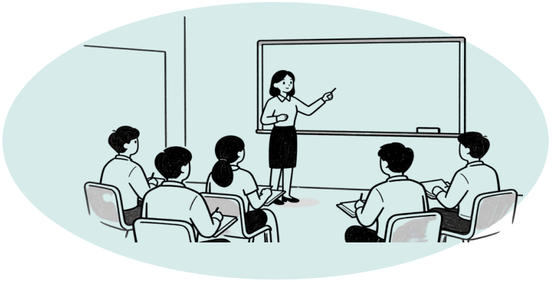
令和7年度の件数は、10月に文科省より通達

いじめの積極的な把握と指導力強化

研修会・学校訪問指導・支援手法の活用

研修・指導体制の整備

・生徒指導研究協議会での継続的な指導と情報共有
・管理職および若手教員を対象とした専門研修の実施
・いじめ防止生徒指導担当による年2回、市内63校への学校訪問による、全教職員対象のいじめ対応研修の開催
・教育委員会によるいじめ防止等の取組み状況確認



支援手法の活用と指導推進

・学校支援専門家（弁護士・大学教授・医師・心理士等）を活用し、専門的な知見を生かした支援を行うことで、教職員の負担を軽減するとともに、児童生徒と向き合い、教育活動に専念できる環境を整備する。また、いじめの兆候を早期に発見し、見逃さないための教職員の観察スキルを向上させるとともに、教職員同士が情報を共有し、連携して対応できるチーム体制を構築する。

情報の共有と迅速な初動対応

学校支援及びスクールロイヤーとの連携

相談・通報の把握と情報集約

・指導主事が情報を集約し、学校からの報告を迅速に整理する

スクールロイヤーとの連携

・学校等が組織的かつ迅速に対応できるよう、週2回、尼崎市教育委員会に継続的に勤務し、法的観点から学校等に助言を行うとともに、いじめ等の事案について支援を行っている。

令和7年度

校種	スクールロイヤー相談件数
小学校	109件
中学校	74件
高等学校	6件
事務局	78件
合計	267件

重大事案への迅速対応

・ 重大事態発生時は教育委員会やいじめ問題対策審議会と連携し、即時対応する

児童生徒への継続的な支援

いじめ解消後も含め、心理的・学習的支援を組織で継続する

被害児童生徒への心理的・学習的支援

・被害を受けた児童生徒の心身の状態を継続的に把握し、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーと連携した心理的支援を行う。

・学習面での遅れや不安にも個別対応し、こども教育支援課との連携を図り（ほっとすてっぷ・サテライト教室・ハートフルフレンドなどを活用し）安心して学べる環境を整える。

・保護者への丁寧な説明と相談や対応を継続的に行う。

・尼崎琴葉中学校（学びの多様化学校）の設立



学校・教育委員会の危機管理

組織的な危機対応体制の整備と再発防止策の検証

危機管理マニュアル・組織的対応

・尼崎市生徒指導ハンドブックを配布し、危機管理マニュアルとしての
　活用と定期的な改定と見直し
・重大事態・自死事案への組織的かつ迅速な対応
・いじめ防止生徒指導担当による支援
・年間4回の「いじめ問題対策審議会」の定期開催と方針共有



学校・教育委員会の危機管理

生徒指導ハンドブックの配付・活用体制

いじめ防止生徒指導担当課

ハンドブックの配付・活用先

市内63校
（市立小中高等学校）

- 特別支援教育担当課
- こども相談支援課
- こども教育支援課
- いじめ問題対策審議会
- 社会教育課
- 学び支援課
- 学校問題サポートチーム
- 尼崎総合医療センター
- 尼崎児童相談所
- 尼崎市少年サポートセンター
- 尼崎市内警察三署
- 疾病対策課

**学校・関係機関が同じハンドブックを共有し、
連携していじめの未然防止・早期発見・早期対応を推進**

専門機関・関係職種との連携

尼崎市のいじめ防止・対応に関わる専門機関

～専門機関が連携し、子どもたちを支えます～

特別支援教育



特別な支援を必要とする子どもたちへの支援や、関係機関との連携を行います。

こども相談支援課



子どもや家庭に関する相談に応じ、必要な支援や関係機関との連携を行います。

疾病対策課



子どもたちの心身の健康に関する支援や、医療機関等との連携を行います。

社会教育課



地域や家庭と連携し、子どもたちの健全育成や学びの機会を支援します。

学び支援課



学習面の支援や、不登校の子どもへの支援を行い、学校生活への復帰や社会的自立を支援します。

こども教育支援課



教育に関する支援や、関係機関との連携により、子どもたちの成長を支えます。

学校問題サポートチーム



学校の取組を支援し、いじめの未然防止や早期対応をサポートします。

専門機関が連携し、子どもたちの安心・安全を支えます



いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて、関係機関が連携して取り組みます。

いじめ問題対策審議会

（弁護士・大学教授・医師・心療士）



いじめ問題の施策や対応について、専門的な立場から調査・審議を行います。

尼崎総合医療センター



医療の専門的立場から、子どもたちの心身の健康や治療・支援に協力します。

尼崎少年サポートセンター



不登校や非行等の問題に対し、専門的な相談・支援を行います。

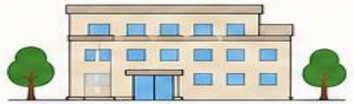
尼崎市内警察三署

（尼崎北・尼崎南・尼崎東）



いじめやトラブルの防止・早期対応に向けて、情報共有・連携を行います。

尼崎市児童相談所



児童に関する相談・支援を行い、子どもと家庭を専門的に支援します。

すべての専門機関が連携し、子ども一人ひとりに寄り添い、安心して過ごせるまちづくりを目指します。

尼崎市の５つの重点課題

①教職員の認知力向上強化

指導力向上を高める研修を全教職員対象に実施。管理職・若手教員への個別指導を推進し、認知力を組織全体で向上させる。

②継続的な児童生徒支援の推進

被害児童生徒への心理的・学習的支援を継続。保護者との連携を密にし、解消後も経過確認と再発防止策を徹底する。

③迅速な初動対応・情報共有の徹底

相談・通報から教育委員会報告までの流れを明確化。指導主事による情報集約と専門家連携で迅速な組織的対応を実現する。

④危機管理マニュアル

重大事態・自死事案への組織的対応を強化。生徒指導ハンドブックを活用し関係機関との体制を整備する。

⑤専門機関との連携強化

学校単独で抱え込まない体制を構築。専門機関と連携し、チームとしていじめ問題に対応する。



子どものSOSを支える取組みと仕組み

「STANDBY」

いじめやSNS上のトラブルなどについて、被害を受けている生徒だけでなく、傍観者や目撃者も匿名で報告・相談できる、子ども専用の相談窓口アプリ



「情報モラル教室」

情報モラルの専門的知識を持つ支援員が出前授業を行うことにより、児童がSNSをはじめとする情報モラルを向上させる。

「スマホサミット」

尼崎市内の学校に通う児童生徒によるスマートフォンなどの使用にかかわるルール作りに関して校種の枠を超えてともに考え、学びを深めるもの。







尼崎市として
【子どもの命と尊厳を守る】ための今後の展望

①未然防止・早期発見・早期対応・再発防止
②認知の徹底と継続的支援
③危機管理と専門家連携の強化

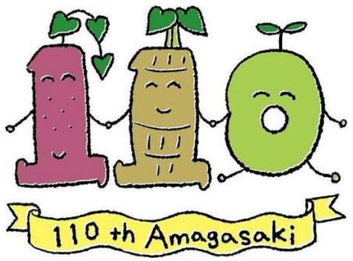
「いじめを見逃さない」そして「組織で支え、対応する市へ」

― 教職員・児童生徒・保護者・関係機関が一体となって取り組む ―

あまたの可能性がさきを拓く
自分をつくり互いを認める教育

不登校支援対策
【多様な教育ニーズに対応した、グラデーションのある支援】

つなぐ つながる
うごきだす



グラデーションのある不登校対策・支援等

← 学校内・集団の活動ができる状態　　学校外・個別の活動が必要な状態 →

居住地の学校に在籍の下で活動（↓転校）

学校内外

各学校、教育委員会、子どもの育ち支援センター“いくしあ”等の日々の取組

学校内

校内サポートルーム・エリア
《学習支援員》

学校に行くことができるが自分のクラスに入りづらい児童生徒など

尼崎市では、多様な学びの場の整備等を進めてきています。

学校外

教育支援室“ほっとすてっぷ”

《ハートフルフレンド》

家から出ることができるが学校に行きづらい児童生徒など

学習支援室“サテライト教室”

オンライン

家から出ることができるが居住地の学校に行くことができない児童生徒など

フリースクール等（※民間）

家から出ることができない児童生徒など

学校内

START!

学びの多様化学校
“尼崎琴葉中学校”

尼崎市立尼崎琴葉中学校（学びの多様化学校）

～本市18校目の中学校として令和8年4月に新たに開校～

新設校舎

■ **平屋建て**（鉄骨造／503.2㎡）
※　屋内渡り廊下で成良中学校琴城分校に接続

■ **クラスルーム3室、サポートエリア・マルチルーム**など
（リビングルームのような多目的空間）



通学区域

市内全域

生徒数

《令和8年4月1日時点》
36名（3学年計）



＜ゆとりと特色ある学びの実現を図るために＞

- **総授業時数を削減**（各学年の標準1,015時間→770時間）
- **登校時間遅め・下校時間早め**の時間割設定
- **総合的な学習の時間を拡充**して教育活動を展開
- 同学年ベースに加え**異学年ベースの授業**を実施
- **近隣の多様な学びの場**（夜間中学校・定時制高校・博物館・図書館）と連携

